

カーボンニュートラルコンビナート構築に向けた検討を開始！

世界的な脱炭素化に向けた動きを受け、我が国においてもグリーン成長戦略の策定やグリーンイノベーション基金の創設など、カーボンニュートラル化の潮流が加速しています。

本市では、こうした流れに先立ち「水素社会実現に向けた川崎水素戦略」に基づく取組を推進してきたほか、令和2年2月の脱炭素宣言や同11月の脱炭素戦略「かわさきカーボンゼロチャレンジ2050」の策定などを進めてまいりましたが、このような社会情勢を踏まえ、2050年のカーボンニュートラルが実現した社会においても川崎臨海部の産業競争力を維持・強化していくことを目指し、市としてのエリアの将来像を示す構想を取りまとめるため、専門的見地からの意見等を聴取すべく、有識者による検討会議を令和3年6月7日に開催し、本格的な検討を開始しました。

川崎臨海部が社会経済状況の変化や社会的要請に適切に対応し、日本のカーボンニュートラル化を牽引するモデル地域になるとともに、2050年以降も企業等に選ばれ続け、産業競争力が維持・強化されたエリアとなるため、2050年カーボンニュートラルを踏まえた臨海部の将来像を、構想として整理することとしました。

1 川崎カーボンニュートラルコンビナート検討会議の概要

(1) 体制

委員

橘川 武郎 (座長)	国際大学副学長・大学院国際経営学研究科教授
石川 雅紀	叡啓大学特任教授
金子 忠裕	三井住友銀行ホールセール統括部サステナブルビジネス推進室長
黒沢 厚志	エネルギー総合工学研究所プロジェクト試験研究部部長
中垣 隆雄	早稲田大学理工学術院創造理工学部教授
平野 創	成城大学経済学部教授
光島 重徳	横浜国立大学大学院工学研究院機能の創生部門教授

オブザーバー

経済産業省	環境省	RING (石油コンビナート高度統合運営技術研究組合)
一般社団法人日本化学工業協会		川崎市経済労働局・環境局・港湾局



(2) 議論の概要

【検討の視点】

- ・2050年カーボンニュートラル社会において、川崎臨海部の産業が維持・発展するためにはどうすればよいか
- ・企業の活動について、産業活動(生産・ビジネス面)とエネルギー利用活動(消費・コスト面)の両面から捉える
- ・石油化学コンビナートを軸に、エネルギーだけでなく、化学原料の転換・資源循環についても検討
- ・エリアのカーボンニュートラル化だけでなく、カーボンニュートラル産業として域外にも貢献

【検討の方向性】



2 今後の予定

有識者検討会議を計3回程度開催するほか、立地企業等へのヒアリングを実施し、議会報告の上、年度内の取りまとめを目指します。

【問合せ先】

川崎市 臨海部国際戦略本部 臨海部事業推進部
担当 篠原
電話 044-200-2095